

札幌皮膚病理所ニュース

2007年11月号



職員旅行特集

10月7日-8日、職員と家族、そして研修医の先生方で小樽-ニセコ-洞爺湖へ旅行に行きました。楽しい写真が多すぎて紹介しきれませんが、一部をお見せします！



小樽：石原裕次郎記念館にて。後ろにあるのは裕次郎の趣味であるヨットの形をしたオブジェです。



↑看板もかわいい。

小樽：自由行動。ベルギーチョコのお店を訪ねました。素敵な石造りの建物内にあります。

小樽：自由行動。人力車に乗って悠々と散策。車夫さんの小樽豆知識は必聴です！



小樽・青山別邸を見学。ニシン漁で財を成した有力者の豪邸です。豪華な襖・梁・お庭などが素晴らしい。内部は撮影不可でした。



岬はココ

↑神威岬（カムイミサキ）：強風のため岬への門が閉鎖されていました…。高所恐怖症の人はホッとしたかもしれません。とりあえず門の前で記念写真。



↓日頃お世話になっている所長へ、職員から感謝の心を込めてプレゼントをお贈りしました。贈呈の瞬間は記者会見のようなフラッシュの嵐が。



↑「昆布温泉ホテルあしりニセコ」にて。松茸、銀杏、秋鯖、柿など秋の味わいを楽しみました。←夕食宴会中。和気あいあい。



↑翌朝の朝食。朝風呂も堪能してすっきりとした表情です。



エサよこせ〜クエッ！

洞爺：遊覧船で洞爺湖の中の島まで渡りました。↑↓中島の動物たち。↑の白鳥は近づいてきた人が食べ物をくれないと分かるとすごい勢いで攻撃してきます。危険。



洞爺：イタリアン「ラ・ロカンダ・デル・ピットーレ」で昼食。本格石窯で焼き上げる香ばしいピザ…思い出すとまた食べに行きたくなります。↓「Reserve」と書かれた石。おしゃれですね。



●学術業績

学会発表

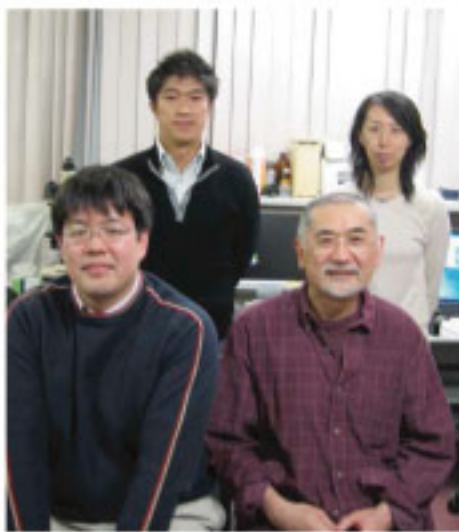
- ・2007.10.13 第87回 北海道医学大会皮膚科分科会
ポスター発表 「Rosai-Dorfman病の1例」
浜坂英里香、伊藤幹、佐藤秀嗣、菊地慶介、
中橋佳子、木村鉄宣
- ・2007.10.14 日本皮膚科学会愛媛地方会第46回学術大会
一般演題「大腿に生じた毛芽腫の一例」
緑川和重、木村鉄宣
- ・2007.10.21 第58回 日本皮膚科学会中部支部学術大会
CPC「左足背部の皮膚腫瘍」
黒岡定浩、川上倫子、曾和順子、加茂理英、
石井正光、木村鉄宣
- ・2007.10.21 第58回 日本皮膚科学会中部支部学術大会
CPC「診断、治療に難渋している臀部の紅斑、びらん局面」
黄原久美子、森原潔、竹中秀也、木村鉄宣

- ・2007.10.21 第58回 日本皮膚科学会中部支部学術大会
一般演題「先天性巨大母斑部に生じ、悪性黒色腫と
疑われた皮下腫瘍の1例」
丸田直樹、是枝哲、石田智子、立花隆夫、
宮地良樹、塩見達志、木村鉄宣

論文発表

- ・「脂腺母斑の臨床病理学的検討」
安齋眞一、福本隆也、木村鉄宣
日本皮膚科学会雑誌 117(10):1611-1619
- ・「新生児エリテマトーデスの1例」
赤間智範、野口奈津子、安齋眞一、真鍋求、梅林芳弘
皮膚科の臨床 49:339-341
- ・「皮膚附属器癌（脂腺、汗腺、毛包）：乳房外Paget病、
汗腺癌、脂腺癌」安齋眞一
形成外科 55:1131-1139

●研修医のご紹介



神戸大学皮膚科の、佐々木祥人先生（前列左）。
10月から12月末までの研修です。研修医のみ
なさんは本当に仲良しで、いつも研修医室から
笑い声が聞こえます。

今後のスケジュール

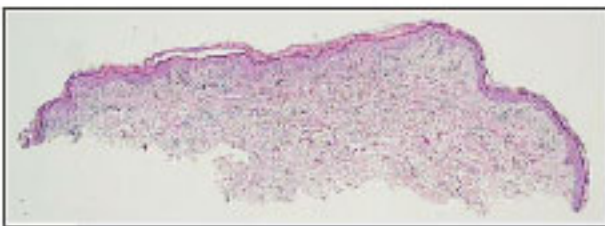
- 2007.11.23
九州大学形態免疫研究会
会場：九州大学医学部
- 2007.12.8(土)
IAP教育シンポジウム
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
主題：炎症性皮膚疾患：臨床医が求める病理診断報告書
講演：炎症性皮膚疾患におけるパターン分類：
病理報告書の実例を中心に
演者：木村鉄宣



★ 年末年始休業のお知らせ

2007.12.30(日)から2008.1.3(木)まで
※1月4日(金)より営業、診断業務は1月7日(月)から
とさせていただきます。

今月の症例



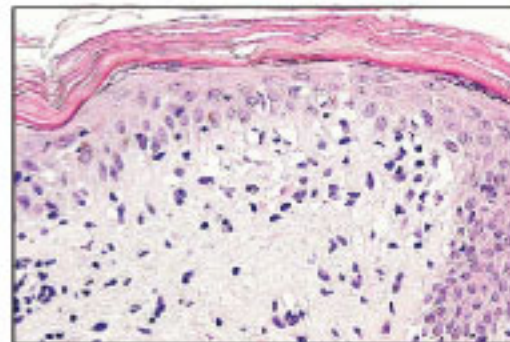
真皮上層に帯状の炎症性細胞浸潤がある。
表皮には軽度のhyperkeratosisがある。

55歳 男性

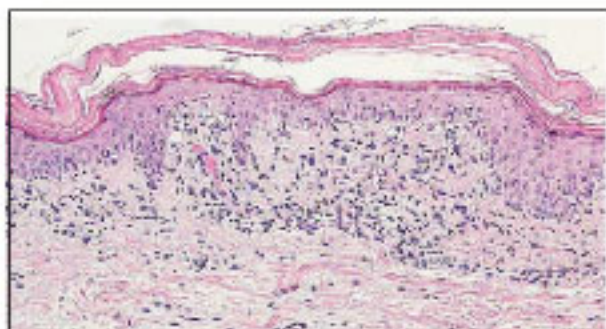
生検部位：上腕

臨床診断：類乾癬

病理組織診断：Pityriasis lichenoides chronica



赤血球の血管外漏出
(図中央)や表皮細胞
の壊死(図左)、
炎症後の色素(メラ
ニン)沈着を伴う。



浸潤する炎症細胞はリン
パ球と組織球が主体
である。リンパ球は表
皮内にも浸潤し、真皮
表皮境界部が不明瞭と
なっている。

注：病理標本だけでは確定診断はできず、鑑別疾
患としてDrug eruption、GVHDなどを考えるこ
とができるため、臨床情報が必要である。

新着情報はホームページ (www.sapporo-dermpath.com) で随時紹介されます。

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842

e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com>

編集担当：佐藤 尚子